



### 誰も取り残されることのない社会を目指して

皆さま、あけましておめでとうございます。2020年が始まりました。2030年にむけて、これからの10年、取り組みたいことを心に留めながら夢を語りたと思います。

#### 誰も取り残されることのない社会を目指したい

これは、テレビ番組のインタビューでグテーレス国連事務総長が語っていた言葉です。

地球温暖化による気候変動、AIの発達、遺伝子操作などの技術の持つリスクも課題ではありますが、私は高齢少子多死による人口減少問題にあって、誰も取り残されることのない社会を目指したいと思います。行政や医療機関だけに頼るのではなく、気づいた人達が行動を起こしていかなくては達成できない社会です。目の前で苦しんでいる人がいたら、暖かな手を差し伸べる人が増えていくことが、解決策の重要な糸口になると考え、有志とともに行動してきました。

実際の現場で行動できる人は、まだ多くはありません。死を目の前にした人に関わることは、医療を専門とする技術職であったとしても苦手と感じる人が多くいます。上手に情報をわかりやすく説明したとしても、避けることのできない死を前にして、穏やかに過ごすことなどできないからです。

#### 苦しんでいる人は、自分の苦しみをわかってくれる人がいると嬉しい

人口減少時代において、人・物・お金も不足していく中で、誰も取り残されることのない社会を実現することとは、新しい産業を興して、人や物やお金を増やすことだけではないと思います。たとえ解決が難しい苦しみを抱えたとしても、人は穏やかに最期まで過ごせることを一部のエキスパートだけではなく、気づいた人がみんなで行動していく社会です。

そんな荒唐無稽なことができるのでしょうか？私は可能だと信じています。

プラスチックゴミを海から回収することを提案した17歳の青年ボイヤン・スラットの活動は、その1つだと思いました。彼はインタビューで、次のように話をしていました。

- ・失敗から学ぶことがあること
- ・恐れてはいけないこと
- ・1つのアクションが次のアクションにつながるので行動に示すことが大切。
- ・世界を変えるために最も重要なことは、意見が異なる人と争うのではなく、互いに合意できる未来を、

一緒に築き上げていく姿勢であること

これからの10年、指をくわえて何かを待つのではなく、行動していくことが求められます。その行動とは、決して具体的に苦しむ人と直接関わることだけではありません。この活動の重要性を認め、伝えるだけでも大きな一歩です。そして、声に出して何かしら動きませんか。その声とは、決してハンドマイクをもって街頭で演説することではありません。SNSで発信していくことも大切な声です。

職種を越え、それぞれの地域で苦しむ人に温かな手を差し伸べてくれる人達がゆるくつながっていくことを通して、誰も取り残されることのない社会を目指したいと思います。

皆さま、これからも宜しくお願いします。 小澤竹俊

### エンドオブライフ・ケア協会5周年シンポジウム

エンドオブライフ・ケア協会では、5周年シンポジウムを企画しました。テーマは、なぜ折れない心は育つのか？です。人生の最終段階を迎えた患者さん・家族の支援で培ってきた対人援助は、すべての苦しむ人への関わり方に共通します。オリンピック・パラリンピック・イヤーを記念して田中ウルヴェ京さんに御登壇いただきます。全国から集まる仲間とともに、大いに夢を語り、それぞれの人達とつながる場であることを企画しています。

日時：2020年4月18日（土）午後1時から午後5時  
会場：品川区立総合区民会館 きゅりあん

（JR大井町駅近く）

詳細は、あらためてHPなどで紹介します。

### 診療実績

	2006-	2019年				2019年 計	総計
	2018年	1月-9月	10月	11月	12月		
訪問回数	70,753	7,847	855	831	823	10,356	81,109
自宅永眠	2,252	178	11	14	15	218	2,470
施設永眠	349	47	4	2	7	60	409
在宅 (自宅+施設)	2,601	225	15	16	22	278	2,879
病院永眠	711	59	9	6	9	83	794